

Free Paper Oral | 外科治療

Free Paper Oral 16 (I-OR16)

Chair: Akio Ikai (The Cardiovascular Center, Mt. Fuji Shizuoka Children's Hospital)

Fri. Jul 7, 2017 1:05 PM - 1:55 PM ROOM 6 (Exhibition and Event Hall Room 6)

1:05 PM - 1:55 PM

[I-OR16-02] Fan-shaped ePTFE valveと bulging sinus ePTFE patchを用いた右室流出路再建術

○宮崎 隆子¹, 山岸 正明¹, 前田 吉宣¹, 谷口 智史¹, 藤田 周平¹, 本宮 久之¹, 山本 祐介² (1. 京都府立医科大学 小児医療センター 小児心臓血管外科, 2. 東京都立小児総合医療センター)

Keywords: 弁付きpatch, 右室流出路再建, 外科治療

【目的】右室流出路再建術(RVOTR)において、transannular patchの使用を余儀なくされる症例がある。我々は長期的な弁機能保持を目的とし fan-shaped valve(FS)と bulging sinus(BS)を有した ePTFE conduit patchを開発・臨床応用し、現在までに本邦のべ65施設で使用されている。今回、多施設における本弁の遠隔成績につき検討する。【対象と手術】2001年～2015年に RVOTRに本 patch使用690例を対象。手術時年齢・体重の中央値は1.3歳(4日-64.2歳)・8.7 (2.8-83.1) kg。monocuspid 634例 (sinus径は13.5mm 201例、15mm 248例、17.5mm 80例、20mm 56例、不明49例)、bicuspid 49例、tricuspid 7例。【結果】平均経過観察期間は7.6±3.5 (最長15.9)。早期死亡8例、遠隔期死亡19例でいずれも弁関連死なし。末梢肺動脈狭窄に対しインターベンションを71例に要した。再 RVOTRは37例(2ヶ月～10.8年後)で原因は RVOTS 20例、PR 4例、PSR5例、IE1例、他病変に対する手術介入時3例。再 RVOTR回避率は5年96.7%、10年92.0%、15年89.9%。術後 PRは mild 以下499例(77.3%)、moderate 139例 (21.5%)、severe 8 (1.2%)。右室-肺動脈圧格差は11.4±13.3mmHgで40mmHg以上37例(5.4%)。RVEDVI≥150ml/m²は 33例(13.5%)。【考察】FSと BSを有する ePTFE patchを用いた RVOTRの遠隔期成績はほぼ満足のものであった。しかし、ePTFEは硬いため適切なサイジングを行わないと肺動脈狭窄をきたす恐れがあると考え。加えて、PRは後方の自己弁の状態にもよると思われるがさらなる弁デザインの改良につなげたい。